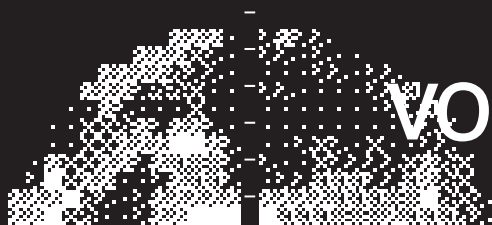
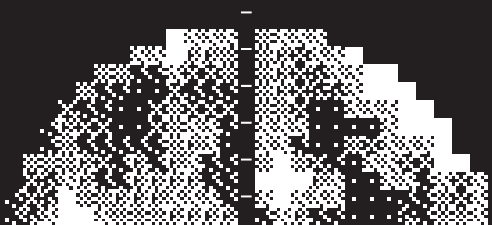
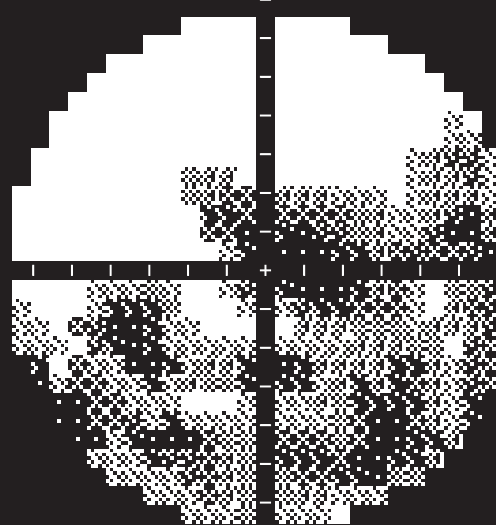
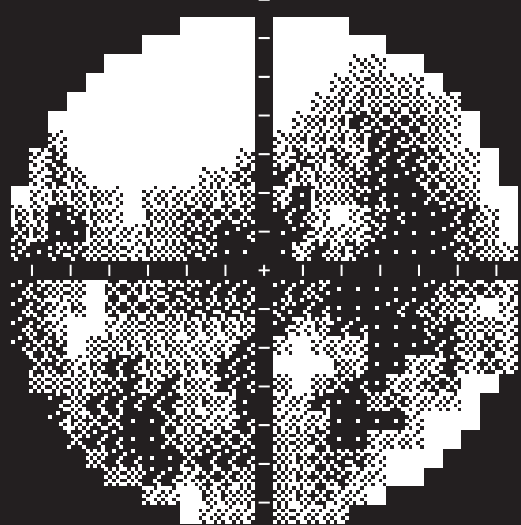


富山のデザイン情報誌

offer

<https://www.toyamadesign.jp/>



vol. 47

offer vol.47 CONTENTS

03 特集

富山のデザインに関するトピックス50

12 VR活用セミナー

第1回 **ものづくり産業におけるVR活用**

講師:藤井 直敬

第2回 **日産自動車におけるVR活用**

講師:磯 聡志/屋岡 治彦

14 デザインセミナー

未来をプログラミングで実装する方法

～現実的ではないが、拡張現実的ではある～

講師:川田 十夢

16 越中富山お土産プロジェクト10周年記念事業

「幸のこわけ」ブランド開発から10周年、記念イベントを開催

18 富山プロダクツ選定事業

優れた富山ブランドとして今年度17点を選定

19 デザイン講習会

二人の建築家、二人のアプローチ

パネリスト:永山 祐子/中山 英之 モデレーター:桐山 登士樹

20 富山県商品開発研究会

ミラノサローネ2019にみるデザイントレンド

講師:山崎 泰/桐山 登士樹/岡 雄一郎

ものづくりで海外と戦う前に、知っておくべき原理原則

登壇者:塩川 嘉章/木村 浩一郎/桐山 登士樹

22 デザインの魅力発見プログラム事業

みんなでつくる“未来のくるま”

講師:杉谷 昌保

24 2019(平成31・令和元)年度事業報告

※敬称略

COVER

デザイナー

墨田 智美 Tomomi Sumida

1987年富山市生まれ。株式会社バランス勤務。

2015年「富のおもちかえり」(とやまの農林水産品ブラッシュアップ事業)指名デザイナー。第56回 富山県デザイン展 優秀賞。TOYAMA ADC ADC賞ノミネート(2016、18)



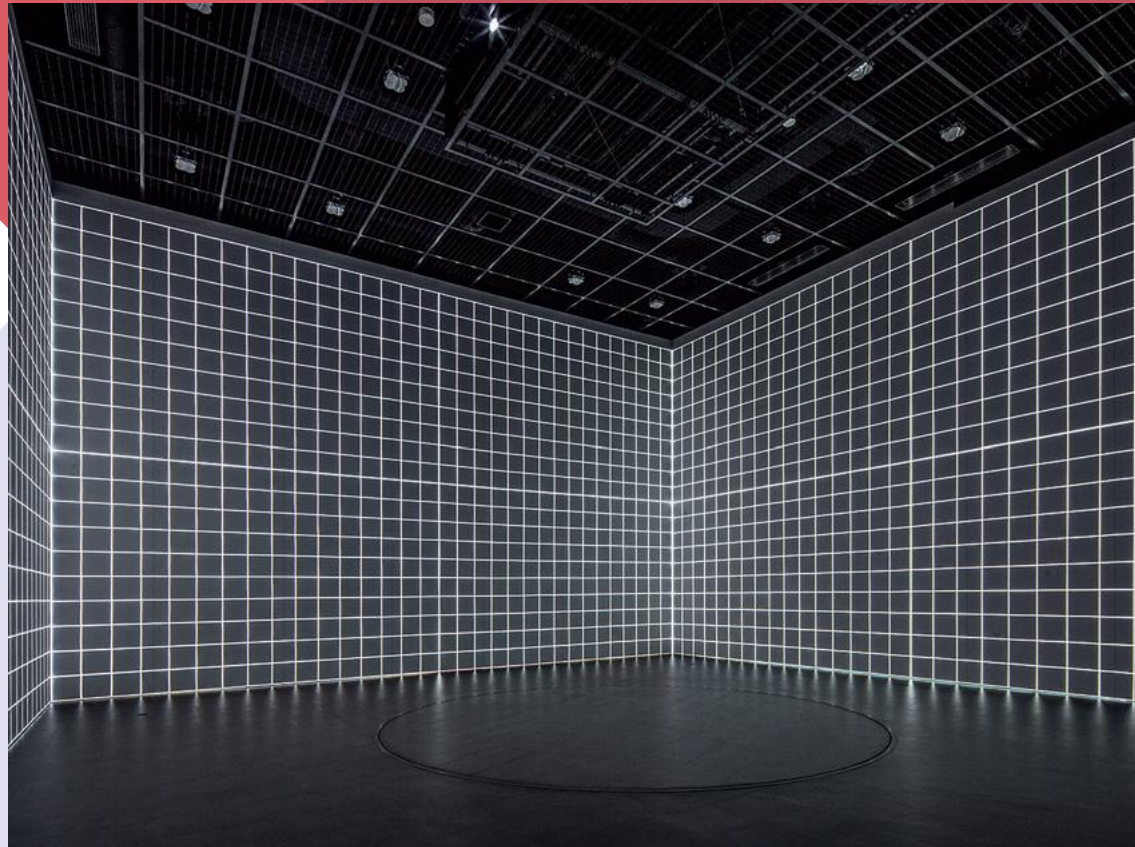
表紙コンセプト/「無意識の偏見」という言葉は、自分自身が気付いていない、ものの見方・捉え方の偏りを言い、育った環境・経験で培われ、必ずしも悪いものではないそうです。人によって異なる見え方の偏りを、視野検査の表をモチーフにして表現しました。私自身デザインを発信する側・受け取る側の両方に立った際に、「無意識の偏見」で見ていることを前提に考え、視野を広く物事を捉えていきたいです。

特集

TOPICS 50

富山のデザインに関するトピックス50

価値観が多様化する社会の中で、地域や企業、商品の魅力を伝える手段としてデザインは重要な役割を果たしています。デザインをうまく活用することで、富山県を盛り上げた魅力的な商品やイベント、プロジェクトなど、この1年間で話題となった50の取り組みを紹介します。



01

富山県総合デザインセンター 「バーチャルスタジオ」を開設

●富山県総合デザインセンター

2019年5月、富山県総合デザインセンターの新施設として「バーチャルスタジオ」を開設。大型スクリーンとして使用できる壁面と車輦用ターンテーブル、車1台を昇降可能な搬入用エレベーター、3台のVRゴーグルと専用ワークステーションを備えた大型のスタジオ施設です。ものづくり産業におけるVR技術の普及を目指します。



02

「越中富山 幸のこわけ」から 新商品発表

●富山県総合デザインセンター

「越中富山 幸のこわけ」が開発から10周年を迎え、2019年10月に富山駅で開催した記念イベントでは、(株)ボン・リブランの「たまねぎスティックパイ」、(株)昌栄堂の「とやま米粉クッキー」、(株)川村水産の「ほたるいか姿干しスモークチーズ」の3つの新商品をリリース。参考商品として(株)鈴木亭の「丸ようかん」を限定販売しました。



03

「越中富山 技のこわけ」が 台湾デザイナーとコラボレーション

●富山県総合デザインセンター

富山県総合デザインセンターでは、台湾デザインセンターと連携に関する覚書を2016年に締結して以降、富山のものづくりと台湾のデザインを融合させた商品開発を進めています。2017年に富山の卓越した工芸の技をブランド化した「越中富山 技のこわけ」が台湾のデザイン賞「ベスト・オブ・ゴールデン・ピン」を受賞したことを受け、台湾デザイナー6組が箸置きの開発に着手。2年の開発期間を経て、多彩な金属素材と台湾らしさが魅力的な箸置き、カトラリーレストが完成しました。

04

富山デザインコンペティション2017 入賞者と「natalie(ナタリー)」を ブランド化

●織田幸銅器

富山デザインコンペティション2017とやまデザイン賞を受賞した、平田昌大氏と平田綾子氏によるデザイナーユニットYURIと(株)織田幸銅器は2018年1月に商品開発をスタートさせ、新ブランド「natalie」が誕生。東京インターナショナル・ギフト・ショー秋2019に出展、現在、都内セレクトショップBEAMS、spiral、青山ブックセンターを中心に販売しています。



05

インテリアに馴染む美しいダンベル 「ARMADILLO(アルマジロ)」を 商品化

●中村製作所

富山デザインコンペティション2018とやまデザイン賞を受賞した、阿部憲嗣氏の作品「ARMADILLO」。自重がおきあがりこぼしのように自立し、インテリアに馴染む美しいダンベルです。(有)中村製作所のロストワックス精密鑄造技術によって商品化に成功しました。銅合金の特性でもある、高い殺菌作用や抗菌性などを活かした身近な製品への展開を視野に入れ、今後は高岡銅器ならではの伝統着色での製品展開も考えています。



06

現代のライフスタイルに合う坐禅(座禅)を 提案する「ZAF」シリーズを発売

●サカエ金襴

金襴緞子とよばれる高級織物を使い、全国の寺院やお仏壇の荘厳品を手作りで製造してきた仏具専門の縫製メーカー、サカエ金襴(株)から、現代のライフスタイルに合う「坐禅(座禅)」を提案する新しいブランド「ZAF-ZEN IN THE LIFE-」が誕生。2019年7月に東京ビックサイトで行われた「interior lifestyle TOKYO」に出展・発表。マルチタスクに生きる時代のリフレッシュクッションとして、僧侶が使用する「坐禅蒲団」をルーツに坐禅・瞑想用クッションを開発しました。



富山のテキスタイル「富山もよう」が 「2019年度グッドデザイン・ベスト100」に選出

●北日本新聞社

北日本新聞社の地域活性化プロジェクト「富山もよう」が、「2019年度グッドデザイン賞」の中でも、特に高い評価を得た100件に授与される「グッドデザイン・ベスト100」に選ばれました。富山もようは、「富山のいいもの、もようしたら富山をもっと好きになる」を合言葉に、富山の特産品・名所などを模様仕立てしていくプロジェクト。これまでに11種類が発表、地元企業や自治体とコラボしたプロダクトに発展しています。



07

富山のテキスタイル「富山もよう」を 採用したタオルを発売

2019年7月、「富山もよう」が(有)セルダム(富山市)とコラボしたフェースタオルとハンカチタオルを発売。県鳥である雷鳥と、名産品のガラス工芸をモチーフにした2種類のテキスタイルは、ほかの富山もようと同じく、マリメッコなどのデザインを手掛ける鈴木マサル氏が制作。セルダムが独自開発した高品質コットン「フェザーコットン®」を使い、今治市で織りあげられ、「今治タオルブランド」に認定されています。



08

乾杯を音で楽しむ真鍮のグラス「Kanpai Bell Pair」を発売

●小泉製作所

銅器や仏具製造の老舗である(株)小泉製作所が、乾杯を音で楽しむ真鍮のグラス「Kanpai Bell Pair」を、大手クラウドファンディングサイト「makuake」にて先行発売。「おりん」の製造を通して培った金属加工技術に応用し、ガラスとガラスが当たった瞬間に「和音」が鳴り響くように設計。わずか1mmという薄さで、口当たりの良さも楽しめます。

【デザイン: 岡 雄一郎】



09

「Kanpai Bell Pair」 小玉文氏デザインの製品パッケージが完成

●小泉製作所

2019年4月、(株)小泉製作所のオリジナルブランド「小泉屋」は「ミラノデザインウィーク2019」に新商品「Kanpai Bell Pair」を初出品。それにあわせて、小玉文氏デザインのパッケージが完成。2脚のシルエットの相違を美しく見せるため、正方形の矩形の中に並べて配置。3枚の板紙から成るシンプルな構造で、精度の高いプロダクトを納めるのにふさわしいデザインです。



製品パッケージ【AD+D:小玉 文 + BULLET Inc.】

10

11

『箸置-「8」-2ヶ入』が おみやげグランプリ2020「奨励賞」を受賞

●能作

(株)能作の『箸置-「8」-2ヶ入』が「おみやげグランプリ2020」の奨励賞を受賞。おみやげグランプリは、2004年に観光庁主催のもとではじまり、日本のおみやげを通して日本の魅力を海外に伝え、日本への来訪を促進することを目的としています。受賞した箸置は数字の「8」の字をデザインしており、日本では末広がりの「八」として、欧米では永遠を意味する「∞」として大変縁起のよい商品となっています。

【デザイン: 吉田 絵美】



おりん「アストロリン」がギフトショーで「ベスト匠の技賞」を受賞

●山口久乗

神仏具制作・卸の(株)山口久乗のおりん「アストロリン」が、東京インターナショナル・ギフト・ショー秋2019「LIFE×DESIGNアワード」において、優れた技術が用いられている商品に贈られる「ベスト匠の技賞」を受賞。このほか、2019年度 全国伝統的工芸品公募展 日本伝統工芸士会会長賞、第57回 富山県発明とくふう展 高岡市長賞、第59回富山県デザイン展 奨励賞、第40回 富山県伝統的工芸品展 とやま手わざアワード奨励賞など多くの賞を受賞しました。

12



ハイグレードな新ライン「かんばせ」を発表

●能作プレスステージ

(株)能作プレスステージは、(株)能作と(株)プレスステージ・インターナショナルの共同出資のもと、(株)能作の100%子会社として設立。鋳物技術を継承・発展させ、進化したブランドとして日本、世界に発信する事業を行っています。第一弾として完成した「かんばせ」は、そろり(花器)と盆の組み合わせで日本ならではの見立てを演出、高岡銅器の高度な加飾技術(彫金、研磨、着色など)を施し完成しました。

13



「kisen」ブランド食器のレンタルサービスを開始

●四津川製作所

銅器メーカー(有)四津川製作所は、2020年3月から、高級食器や酒器のレンタルサービスを開始。顧客の「買う前に試したい」との声を受け、「伝統の高岡銅器に触れる機会を増やしていきたい」との思いから、1点1万円以上の商品を全国のレストランや家庭で気軽に使っていただくという試みです。金箔で覆ったアルミ製の小皿や、山中漆器と組み合わせたワインカップなど、ほぼ全種類を2泊3日で1点500円以内で借りることができます。



14

ドクダミの「香袋」を商品化

●かわせい堂

古来よりさまざまな用途で使われているドクダミ。先人達の知恵を今に活かしたいとの思いで、香り袋という形で商品化。独特の匂いで虫を寄せ付けないドクダミの特性を活かし農業などは不使用。3,000m級の立山連峰からの伏流水に恵まれる富山で育ったドクダミを天日で干して、芳しい香りを引き出し、さらにクロモジや月桂樹を加えて、ひとつひとつ手作りで仕上げられています。

【パッケージ、WEBデザイン:(株)五割一分】



井波彫刻協同組合がブランドロゴを発表

●井波彫刻協同組合

2019年8月、京都工芸繊維大学と井波彫刻協同組合との連携ワークショップの成果である「井波彫刻ロゴマーク・ロゴタイプ」が「井波彫刻協同組合 創立百周年記念式典」において発表。このワークショップは、富山県総合デザインセンターのコーディネートにより2018年度に実施されました。ロゴマークは、職人が木を彫ることで作品に命が吹き込まれるという、彫刻の本質を表現したものです。また、3本線は彫刻の彫の「ㄥ(さんづくり)」を示しています。今後の井波彫刻の展開に注目です。

16



D&DEPARTMENT TOYAMAが5周年

●D&DEPARTMENT

富山県民会館1Fにロングライフデザインが揃うお店としてオープンしたのが、北陸新幹線開業と同じ2015年3月14日。富山における息の長いデザインを掘り起こし、伝え、学ぶ場を展開しています。毎月企画される「NIPPON VISION MARKET」では、奈良県の「萱澤商店」や、山梨県の「TENJIN-FACTORY」、福岡県の「うなぎの寝床」など注目の日本全国の伝統工芸や地場産業も紹介しています。

18

17

鋳物ならではの上品な質感「ハリネズミツール」を製作

金工作家の青木有理子氏が過去にデザインした苔器「ハリネズミ」をリデザインし、ツールとして仕上げた「ハリネズミツール」。鋳物の着色には漆の焼き付けを施し、鋳物ならではの上品な質感があります。表面は圧縮ウレタンで成形し、その上に綿を一層被せ、硬すぎず柔らかすぎない座り心地。砺波工業(株)の1Fギャラリーには、親子5匹(脚)が並んでいます。

【鋳造・仕上げ:(株)梶原製作所】





19

紙のプロダクトブランド「cusuri」 オンラインでさらに多くの人に発信

●富山スガキ

富山の薬売りが子どもたちに配った紙ふうせんは、薬都富山を象徴するお土産として知られています。長年にわたり紙ふうせんを作りつづけてきた富山スガキ(株)が、作り手の後継者不足を解消し、未来に紙ふうせんを残すために始めたブランドが「cusuri」。2019年末オンラインショップを開業。思わず「クスリ」と笑顔がうまれる瞬間をより多くの人に発信していきます。

20

富山のおいしい水、お酒を楽しむ 「Simpleglass.」

ガラス作家の木下宝氏が、シンプルな形のガラスやピッチャーを「Simpleglass.」という屋号でスタート。2019年9月に行われた「ててて往来市2019」で発表しました。ちょうどよい厚みで、やわらかな丸みのある透明なガラス。富山のおいしい水、お酒をじっくりと味わえる素敵なガラスです。



21

凍らせて食べるどら焼き「アイスドラミルク」を発売

●中尾清月堂

斬新な発想で和菓子業界に新風を巻き起こす(株)中尾清月堂が、凍らせて食べる新食感どら焼き「アイスドラミルク」を発売。生地の中にアイスクリームを挟んだ一般的な「どら焼き型アイス」とは違い、ホイップクリームと小豆を配合した「ドラミルクホイップ」を独自に開発したもので、さっぱりした味わいが特徴。ネーブルオレンジ、マツチャク大納言、ラムレーズンの3種類のフレーバーがあり、夏季限定で販売しています。



22



「豆菓子」のパッケージデザインを リニューアル

●島川あめ店

2019年8月、麦芽あめを寛文3年から製造する(株)島川が、人気商品「豆菓子」のパッケージデザインをリニューアル。同年にらいちょうをモチーフとした島川あめ店の新しいロゴマークが誕生し、「あめ屋のマーシュ」「水飴」のパッケージリニューアルに続く第三弾。島川あめ店では「オノマトペのおやつたち」プロジェクトの富山県美術館限定発売商品「トゥルトゥン」、「コルコル」など新商品の開発にも取り組んでいます。

23

ウイスキーにあうフードブランド 「HARRY CRANES」を展開

●GRN

GRN(株)が展開する「HARRY CRANES」は、ウイスキーのお供にふさわしい逸品や北陸・富山ならではの味覚を集めたオリジナルフードシリーズ。「ここにしかない、PRECIOUSをつくる。」をキャッチフレーズに、ウイスキー蒸留所「三郎丸蒸留所」、モルトウイスキーパー「HARRY'S」とともに、多くのウイスキー愛好者にウイスキーとそれを愉しむ豊かな時間を提供しています。



24

世界初鑄造製ポットスチル 「ZEMON」を開発

●若鶴酒造

三郎丸蒸留所は、若鶴酒造(株)が運営する北陸で唯一のウイスキー蒸留所。「ZEMON(ゼモン)」は高岡銅器の梵鐘の技術から生まれた全く新しいポットスチル(蒸留器)。鑄造工法による型成形によって、従来の純銅の板金品に比べ、自由な造形とメンテナンス性の向上を実現。また、銅と錫の2つの素材の効果で酒質をよりまろやかにするなど、特徴のある蒸留酒の製造にも貢献しています。





「パッシブタウン」で先進的なまちづくりを目指す

25

●YKK不動産

YKK不動産(株)では、黒部市にある旧住宅跡地を、エネルギー消費の少ないまち・住まいを実現する「パッシブタウン」として開発。黒部にある自然エネルギーを最大限活用し、持続可能な社会を目指します。豊富な地下水、太陽熱やバイオマスを利用した第1街区、断熱性能をさらに強化しつつ雑木林の中に溶け込むような第2街区、外皮性能の向上により温度ムラのない温熱環境を実現した第3街区。個性豊かな複数の街区に分けて開発を行い、2025年までには約250戸が完成予定です。また広く一般に開放されており、YKK社員のみなならず一般の方も入居することができます。



日本の原風景が残る多幸感あふれるヴィレッジ「Healthian-wood」オープン

26

2020年3月、立山連峰の麓立山町にハーブ園を中心としたビューティ&ウエルネスヴィレッジ「Healthian-wood(ヘルジアン・ウッド)」がオープン。建物の設計は建築家・隈研吾氏が担当。レストランでは西洋と和のハーブをフューチャーし、富山の食材と合わせたコース料理や体調に合わせたハーブティを提供します。自社栽培のハーブから精油を抽出する工房や、イベントスペースも併設。国内外に富山の豊かさを発信する新たな拠点として、期待を集めています。



県防災・危機管理センター(仮称)が2022年度中に完成

27



災害時に対応するため、富山県では常設の災害対策本部室や政府現地災害対策本部室、防災関係機関等が活動する受援のためのスペースを有する「富山県防災・危機管理センター(仮称)」が整備されており、2022年度中には竣工し供用が開始される見込みとなりました。平常時の有効利用のための施策も検討されています。



「雨水をランドスケープの一部に」をテーマにした東京ショールームを設置

28

●瀬尾製作所

2019年4月、新宿パークハイアットビル7FのOZONE内に東京ショールーム「瀬尾製作所展示室」をオープン。現代の生活環境の中で故人によりそった供養のかたちを作るために生まれた「Sotto」、および現代の建築にフィットする新しい鎖構を提案する「SEO RAIN CHAIN」を展示しています。

職人に弟子入りできる宿「BED AND CRAFT」に新棟オープン

29

●コラリアルチザンジャパン

2019年10月、南砺市の伝統工芸の井波彫刻体験を核とする宿泊施設BED AND CRAFTの新たな棟「KIN-NAKA」「MITU」「TenNE」がオープン。格式高い元料亭の古民家を改装した3つの宿には作家の作品が随所に展示されており、彫刻家・前川大地氏、陶芸家・前川わと氏、仏師・石原良定氏が協力作家として参加しています。運営するのは山川智嗣氏をはじめとする建築家や彫刻家、職人達で構成される(株)コラリアルチザンジャパン。2017年にはグッドデザイン賞を受賞しています。



企画展「わたしはどこにいる？ 道標(サイン)をめぐるアートとデザイン」を開催

●富山県美術館

2019年3月～5月、企画展「わたしはどこにいる？道標(サイン)をめぐるアートとデザイン」が開催。国内外で活躍する7名のグラフィックデザイナーによるサインデザインと、場所との関係性を追究した現代美術作品をあわせて紹介。人間がどのように場所や空間を理解し、伝えようとしてきたのかを、「アート」と「デザイン」から迫りました。



30



国際工芸アワードとやまを開催

●富山県美術館

「国際工芸アワードとやま」は、50才以下の工芸に携わる作家、職人、デザイナーなどを対象とし、工芸に従事する一人ひとりの考えや取り組み、戦略と実践、未来への展望などを総合的に評価し奨励するもの。2020年3月に1次審査、5月に1次審査通過者の実作品による審査を実施し、入賞作品7名(組)を決定します。

34

「冥土」をテーマに、 仏具のまちをPR

●高岡伝統産業青年会

高岡の若手職人たちの団体「高岡伝統産業青年会」による、ハンド冥土(メイド)の工芸品ショップ「スーベニ屋」が、2019年9月3日～6日に開催された東京国際ナショナルギフト・ショー秋2019に出展。「冥土のおみやげショップ」と銘打ち、仏具のまち高岡をユーモアたっぷりに紹介しました。「あの世でも大切にしてほしい」との思いを込め、仏具や工芸作品など、「一生モノ」を超えた品をそろえました。

31



「Factory Art Museum Toyama」の取り組み

●フジタ

(株)フジタが、「町工場にメタルアートミュージアムを作るプロジェクト」として、2017年4月にオープンした、まち工場ミュージアム「FACTORY ART MUSEUM TOYAMA」(高岡市)。その2階フリースペースで、月1回開催の「哲学カフェ」が大人気。定員15名、毎回ほぼ満席の会場で「人工知能と倫理」「幸せとはなにか」など、さまざまなテーマで参加者が意見を交わし、気軽な学びの場となっています。



32



道の駅「雨晴」が 「全建賞」を受賞

道の駅「雨晴」が、全日本建設技術協会が優れた建設事業に贈る「全建賞」を受賞。2018年にオープンした道の駅「雨晴」は、立山連峰のオーシャンビューが人気で、海や周辺の自然に映える白色を基調にした豪華客船をイメージさせる建物。地域資源の魅力発信拠点を目指し、産・官・学の検討会議により、コンセプトから施設デザインまで、景観に調和して建設された点が評価されました。

33



観光交流拠点施設「ヒスイテラス」 1周年イベントを開催

「ヒスイ海岸観光交流拠点施設 ヒスイテラス」のオープン1周年を記念して、2019年10月19日～20日の二日間にわたり、「屋台村」をコンセプトにしたイベント「ヒスイ海際横丁」が開催。歌謡曲DJが流れる懐かしい雰囲気の中、こだわりグルメがそろった「シーサイド屋台村」では、居酒屋メニューをはじめ、朝日町名物スペシャルメニュー等が提供され、来場者は「酒と食と音楽」を満喫しました。

35

観光法人「水と匠」を設立

●富山県西部観光社 水と匠

富山県西部に含まれる豊かな地域資源を最大限に生かし、観光振興による地域経済の活性化と、「富山」での誇りある豊かな暮らしの実現のため、高岡、射水、氷見、砺波、小矢部、南砺6市の行政と約80(2020年1月現在)の民間企業・団体による観光法人「水と匠」が設立。観光産業をベースに地域産品の開発・販売や空き家の活用まで、域内外の関係者をつなぎながら、さまざまな事業を展開していくプラットフォームとなることを目指しています。

36



水と匠





37

富山駅路面電車の南北接続事業3方面へ直通運転の計画

富山駅の南側で富山地方鉄道(株)が運行する市内電車(富山駅～大学前、富山駅～南富山駅前、環状線)と、北側(岩瀬浜～富山駅)で富山ライトレール(株)が運行するLRT(次世代型路面電車)をつなぐ軌道線南北接続事業の開業日および運行形態などが、2019年10月1日に発表されました。開業日は2020年3月21日。岩瀬浜～富山大学前、岩瀬浜～南富山駅前、岩瀬浜～中心部を周回する環状線を結ぶ3ルートで、直通運転を行います。

富山駅に「待合室」を新設

●三芝硝材×川原製作所

2019年12月、あいの風とやま鉄道は富山駅構内のコンコースに「待合室」を新設。富山湾、立山連峰を吹き抜ける風をイメージした出入口の扉は、総合ガラスメーカーの三芝硝材(株)と越中和紙を製造する川原製作所が製造。内装には、富山県産の木材であるひみ里山杉が使われ、温かみのある空間が演出されています。

39



「花を贈る日」PRのラッピング車両がお披露目

2019年12月4日、「花を贈る日」をPRするポータラムのラッピング車両がお披露目。「和の華やかさ」をテーマに、デザインを手掛けた富山北部高校情報デザイン科の2年生10人が、仕上げ作業に取り組みました。車両デザインには、ブーケと共に「いつもありがとう」といったメッセージを添え、紫色やえんじ色など、日本らしい色合いの花とリボンを流れるように配置。2020年2月まで運行しました。



41

富岩水上ラインに新艇「kansui」を設置

2019年3月、富山県と富山市が富岩運河で運航する遊覧船「富岩水上ライン」に55人乗りの新艇「kansui」が加わりました。富岩水上ラインの利用者は年々増えており、さらなる需要を見込み新艇と新たな待合所を整備。新艇の名称は公募によるものです。



38

プリフィクス+五割一分がデザイン監修した「観光列車一万三千尺物語」が運行

●あいの風とやま鉄道

標高3,000m級の山々が連なる雄大な立山連峰から深海約1,000mの美しい富山湾まで奇跡の高低差が体感できる列車「一万三千尺物語」。この列車の企画段階から全てのデザイン監修のために結成したデザインユニット「プリフィクス+五割一分」は、富山の自然の恵みと雄大さが感じられる車両をデザインしました。



40

「プラごみ問題啓発」のラッピング電車が運行

2019年8月20日～9月20日、海洋プラスチックごみ問題を啓発するラッピング電車が運行。富山市と(公財)日本財団による共同事業として、富山市内中心部を走るセントラムとポータラムにラッピングが施されたほか、富山駅構内にも同じデザインの大型パネルを掲出。イラストは、海洋ごみの大半を占めるペットボトルやビニール袋で、富山の特産品であるプリのシルエットを描いたものです。



42



「プラごみ問題啓発」のサインを松川周辺に設置

海洋プラスチックごみ問題を啓発する路面サインが、富山市と(公財)日本財団との共同事業により、松川周辺7カ所に設置。サインは、海をイメージした水色を背景に、海洋ゴミでかたどったプリが描かれ「NOポイ捨て」とメッセージが記されたもの。ラッピング電車や、富山駅での大型パネル掲出と同じく、公募により選ばれた富山大学芸術文化学部の学生のデザインが採用されました。設置期間は、2020年3月31日まで。



43

高岡駅南に「ランニング専門店」をオープン **44**



●ウェルビー

2019年9月14日、高岡市のウェルビー(株)が、ランニング・トレイルランニング専門店「SALLY'S RUNNING DEPT. (シリーズ・ランニング・デプト)」をオープン。お店に並ぶ商品は、確かな機能性とファッション性を兼ね備えた「ランナーにとって本当によいもの」を厳選して販売。また、北陸を中心に開催される大会情報の発信やランニングイベントの企画も行う同社初の直営店です。内装設計は富山の設計事務所である水野建築研究所が手掛けました。

タンパク質素材を使用したジャケット「ムーン・パーカ」を発表

●ゴールドウイン

(株)ゴールドウインが、バイオベンチャーのスパイバー(株)と共同開発で、微生物による発酵で生成したタンパク質を用いる、世界初のジャケット「ムーン・パーカ」を発表しました。石油や動物性原料を使わず、環境への負荷が小さい人工タンパク質から、耐久性が高く収縮性の低いナイロンに近い繊維を作ること成功。表地の表側に使用し、最高級ダウンなどを用いて防水透湿・保温性を確保。裏地には地球をデザインして完成しました。

写真提供：(株)ゴールドウイン

46



人工知能やIoTを取り入れた「次世代ごみ箱」の開発に注力

●カイスイマレン

環境用品製造・販売の(株)カイスイマレンは、人工知能やIoT(モノのインターネット)を取り入れた「次世代ごみ箱」の開発に力を入れています。カイスイマレンの主力製品は、樹脂やステンレス製のごみ箱やごみステーション。同社で初めて手掛ける電動式モデル「電動カートベールCPR600EV」は富山大学芸術文化学部の内田和美教授のアドバイスがあり完成しました。近年は製品の開発に加え、ごみの分別や収集といった関連作業の効率化に向けたサービスの市場投入に注力しています。



49

富山マラソン2019「メダルデザイン」を製作 **45**

●竹中銅器

2019年10月27日に開催された「富山マラソン2019」において、(株)竹中銅器によってデザインされたメダルが、フルマラソンの部完走者に贈られました。スタートからゴールまでの風景をモチーフに、富山の歴史、文化、自然を表現。表面は大会ロゴマークと高岡御車山の車輪、ゴール地点の富岩運河環水公園の景観をデザイン。裏面は新湊大橋と立山連峰に、大会が5回目であったことから「5th」の文字があしらわれました。



47

第9回シアター・オリンピックスを開催

●富山県文化振興課

「シアター・オリンピックス」は世界各国で活躍する演出家・劇作家といった芸術家同士の共同作業によって企画される国際的な舞台芸術の祭典。今回は初となる、日本とロシアの2カ国で共同開催。日本では2019年8月～9月の1カ月間、南砺市利賀村と黒部市の3会場にて行われました。



48

建材メーカー製品が「キッズデザイン賞」に選出

●YKK AP ●三協アルミ

YKK AP(株)の戸締り安心システム「ミモット」、断熱玄関ドア「ヴェナートD30」、園児の網破りを防ぐ網戸「WS10E型パネルスクリーン」、三協立山(株)三協アルミ社の洗濯物の乾きやすさや干しやすさを工夫したテラス囲い「晴れもようwith」が、「キッズデザイン賞」を受賞。同賞は、子どもの安全や成長に役立つ優れた製品やサービスなどを顕彰するもので、いずれの製品も楽しく安全に育児に取り組める工夫が評価されました。



ヴェナートD30



晴れもようwith

サッカー日本代表ユニフォームに富山出身作家のアンビグラムを採用

50

アディダスジャパン(株)が発売したサッカー日本代表2020ホームユニフォーム。襟元の裏に配されたサインオフは、コンセプトである「日本晴れ」を逆さまにして読むと男女それぞれ「侍魂」「撫子魂」と読めるグラフィカルな文字アートで、アンビグラム作家の野村一晟氏とのコラボレーションで制作されました。

男子ユニフォーム



女子ユニフォーム



第1回

ものづくり産業における
VR活用

VRを手軽に体験できるヘッドセット「ハコスコ」を開発した(株)ハコスコ代表取締役の藤井直敬氏を招き、ものづくり産業におけるVR技術の活用事例をお話いただきました。

期日 2019年6月19日(水)

会場 富山県産業高度化センター
2F会議室

富山県総合デザインセンター
バーチャルスタジオ

【講師】

藤井 直敬

デジタルハリウッド大学大学院教授、(株)ハコスコ代表取締役、一般社団法人VRコンソーシアム代表理事

1965年広島県生まれ。91年東北大学医学部卒業。97年同大大学院にて博士号取得。98年よりマサチューセッツ工科大学にて研究員。2004年理化学研究所副チームリーダー。08年理化学研究所チームリーダー。14年(株)ハコスコ起業。18年デジタルハリウッド大学教授。著書に、「つながる脳」(毎日出版文化賞)、「ソーシャルブレインズ入門」「予想脳」など。



VRは認知を拡張し、進化させる環境技術

認知を拡張するVR

一般的にVRは仮想現実と言われますが、「バーチャル」本来の意味は「仮想」ではなく、「表面上は現実ではないが、本質的には現実」という意味です。VRにあてはまる、適切な言葉はまだ生まれていません。いわゆる「仮想的な世界」とは違う、ということを知ってください。

VRとは人間の認知を拡張し、進化させる環境技術だと思っています。たとえば電話も拡張機能の一つです。本来ならば、近距離で生の声でないと会話ができませんが、電話を使用すると離れた人たちと会話を行うことができます。それが認知の拡張です。

人は認知が拡張されることによって、進化していきます。VRが当たり前になった世界では環境と一体となって、区別がつかえません。そういう意味でVRは環境の一部だと思っています。

一方で、VRにはさまざまな課題があります。共有が難しく、一人でしか体験できない。データ量が多く、画質を上げようとする

と大変。しかし、ここ数年でずいぶん解決できるようになりました。

目の前にいる人は実在する人か

現実にはないものを表現するARに対して、あるものを消すディミニッシュ・リアリティという技術もあります。ヘッドセットなど新しいデバイスを使用した時、いま見ているものが本当に存在しているかどうか分からない可能性が出てきているということです。それが今後私たちが暮らしていく世界になります。

目の前に見えている人は本当の人ではないかもしれません。将来、本当の自分の姿ではなく、自分の姿とは異なるキャラクターを身にまとい生きていく人たちが出てくるかもしれない。それはもしかしたら、良いことかもしれない。「痩せなきゃ」とか、「しみを取らなきゃ」とか、そんなコンプレックスがなくなるかもしれないのですから。亡くなった人をエージェントとしてキープし、引き続ける商品もすでに生まれています。知らない人から見たら、その人は死んでないのと同じです。認知という点で、現実を取り巻く状況は曖昧になっています。

無意識下での情報処理

今まで明確に見えていた意識の境界を、テクノロジーが取りはらう時代が来るでしょう。これまで、私たちは新聞などのメディアから系統立てられた情報を与えられてきました。しかし今後は、膨大な量の情報を受け取り処理しなければならない状況に置かれ、いずれ処理しきれなくなるでしょう。

そこで注目するのは無意識下での情報処理です。人は無意識でも情報を処理し、使っています。無意識下での情報処理から意識上に沸きあがってくるものが、私たちが認識する情報となります。

認識する情報を、私たちは認識する以前から理解し、使っている。無意識から意識上に沸きあがる情報は、その人が「思いついた」ものですから、人から与えられた情報とは違い「豊かな」ものです。このような「豊かな思いつき」のプロセスを私たちは身につけなければならないと思いますし、そのための設計が求められます。テクノロジーはこのような面でも人を支えることができると考えます。

第2回

日産自動車における VR活用

VR技術を活用したコネクテッドカーシステムを手掛ける日産自動車(株)のデザインリアライゼーション部に所属する磯聡志氏と屋岡治彦氏に、車両デザインをはじめ、日産自動車におけるVR技術の活用事例をお話いただきました。

期日 2019年7月5日(金)

会場 富山県総合デザインセンター
バーチャルスタジオ

【講師】

磯 聡志

1998年日産自動車入社、デザイン本部配属。日産デザインヨーロッパデジタルモデリング担当。2012年日産デザインアメリカにて北米向け車両のデザイン開発担当。16年エンジニアリングシステム本部IT・IS部門配属。18年デザイン本部及びエンジニアリングシステム本部主担兼務。I-lab(イノベーションラボラトリー)及びコンセプトカー開発責任者。

屋岡 治彦

1986年日産自動車入社、デザイン本部配属。2000年デザイン本部ビジュアルライゼーショングループ配属。04年MR(ミックスリアリティ担当)。07年NissanVRシステム開発。18年デザイン本部I-lab(イノベーションラボラトリー)配属。



VRを使って商品力とブランド力を強化

デジタルとアナログの混在

日産自動車のデザインリアライゼーション部はデザイン本部に所属し、自動車だけではなく、日産に関係するディーラーや販売店、工場などの建物、看板や制服など、あらゆるものをデザインしています。

現在のタスクは、イメージを使って現実にと落とし込むというものです。具体的には車の開発をする際、クレイモデルを作ります。粘土を使って、1/1スケールで車のデザインを決めていくのです。その際、CGや3Dデータも活用しています。CGやコンセプトカーを製作する担当でもあるので、ものづくりとITの両方のキャップを被ってやっている、デジタルとアナログが混ざった部門です。

日産自動車では、戦前から車の生産を始めています。当時、デジタルは一切なし。線を引いて車のデザインを決めていた時代です。1970年代になると、アメリカからCADなど、いろいろな技術が伝わり、デザインの大きな変革期を迎えました。1980年代はデジタル化が進み、図面からデジタルに移行した時期です。

失敗を仮想的に作り出す

現在ではデザイン用CADを使い、デザイナースケッチをベースにして、形をCGにおこしてデザイン開発を進めています。私たちはCGをVRの一つとして捉えており、CGを使って車のスケール感、ディテール、ヘッドライトの位置など確認しています。大きなサーバーの中にシステムを組んでCADデータをアップロードするだけで、CGが簡易に作れるようになっているのです。

こうした技術を使用することで車の開発スピードが上がります。メリットとしては、コストのかかる試作車両を作らなくてよくなったことがあります。ただし、コスト削減がメインであるとは考えていません。

むしろVRによって「失敗」を仮想的により多く作り出すなどして品質向上、不具合の検出、課題の抽出ができることのメリットがより大きいと考えています。これらのデザインサイクルをより多く回すことによって商品力の強化、さらに会社のブランド力の強化にもつながるからです。

海外拠点を結んでVR会議

世界中にスタジオがあるため、世界各地で同時にデザイン開発もできます。これまでクライアントに対して、試作品が完成した時、実物を持っていったり、インターネットでカンファレンスをしていました。しかし、VRを使用すると直接、実物を見ながら拠点間で確認や会議が簡単にできます。従来、会議に参加するために、海外に行かなければならなかったのが、いまでは所要時間30分で済むようになったのです。

VRは一人ではしか見られないのがデメリットであると言われてきました。それを解決するには、同じコンテンツに全員が入れば良い。説明する人、聞く人、全員が同じVRスペースに入って、全員が同じコンテンツを見る。VRスペースの中で説明をすれば、そこで完結することができます。当社では実際に10台のVR機器を海外拠点につなげて会議をしています。ソフトがあれば、そんなに難しいことはありません。VRの活用によって、車両デザインの開発は非常に簡易になっています。

未来をプログラミングで 実装する方法

～現実的ではないが、拡張現実的ではある～

開発ユニット「AR三兄弟」の長男としてさまざまなメディアで活躍するARの第一人者、川田十夢氏を招き、ゲームだけにとどまらないARの可能性とその未来についてお話いただきました。

期日 2020年2月27日(木)

会場 富山県総合デザインセンター
バーチャルスタジオ

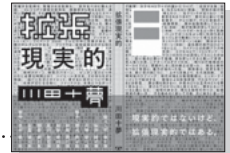
【講師】

川田 十夢

開発者/AR三兄弟 長男

1976年熊本県生まれ。10年間のメーカー勤務で特許開発に従事した後、やまだかつてない開発ユニットAR三兄弟の長男として活動。主なテレビ出演に「笑っていいとも!」「情熱大陸」「課外授業ようこそ先輩」「タモリ倶楽部」など。劇場からプラネタリウム、百貨店から芸能に至るまで。多岐にわたる拡張を手がける。

雑誌「WIRED」では2011年に再刊行されたvol.1から特集や連載で寄稿を続けており、10年続く「TVBros.」連載は2020年4月2日に書籍発売。



例えば、プログラミング教育で開けるARの活用

ARとの出会い

マシンメーカーで開発の仕事をしていた頃に、「欠品した部品にカメラをかざしたら、すぐ商品番号が分かって発注できる」という仕組みを作りました。僕が新しかったのは、マーカーを使わないで現実にあるものを検索できる仕組みを、いち早く作ったことです。その時にARに出会い「AR三兄弟」として独立、10周年を迎えました。

僕は「テクノロジーの進化＝省略」だと思っています。これまで「マウスの省略」として、「Kinectセンサー」を使って手だけでブラウジングできる仕組みを作ったり、「ツールの省略」として、リモコンがなくても操作できる仕組みを作ったりしました。

そのほか、「No Music No Lifeの拡張」と銘打って、ユニコーンと奥田民生のCDジャケットで使用されているジオラマを試聴機に変身させました。この試聴機のアクリルケースに聴診器を接触させると、音楽が流れるという仕組みになっています。

ファッションとの連動

震災時にファッションショーが開催できなかったことから考え、開発したのが、家の中でファッションショーを楽しめる「AR

ファッションショー」。気持ちが重い時ほど、ファッションは機能すると考えています。

さまざまなアイテムの組み合わせから、不思議な詩やメッセージが生まれる仕組みが「HOW TO SHOP?」。これは、購入したアイテムのバーコードを読み取ると、レシートに自分だけの詩が印字されるというものでした。

ARアプリと連動した「PEACH JOHN」のカタログも評判になりました。モデルの紗栄子さんをアプリ上で360度回転させることができたり、動画が再生できたりと、新しい体験ができる未来のカタログです。

5G時代のAR

スマホでモデリングして、3Dモデルをそのまま作ることも可能になりました。モデリングしたものを光学迷彩にしたり、打ち合わせの風景を石化して議事録にしたり、モデリングしたものにガラスやゴムのような質感をどのように与えるかなどが、次のクリエイティブになると考えています。

さらに人間の経験を可視化することもできます。誰かの足取りを点描として空間に残すといったことも、一般的になってくるかもしれません。

5Gの時代がかなえるものは、平面では

なく立体的なデータです。そこにひも付くメタ情報、モーションデータをいかにリッチな状態で共有するかが、次のメディアであると思います。

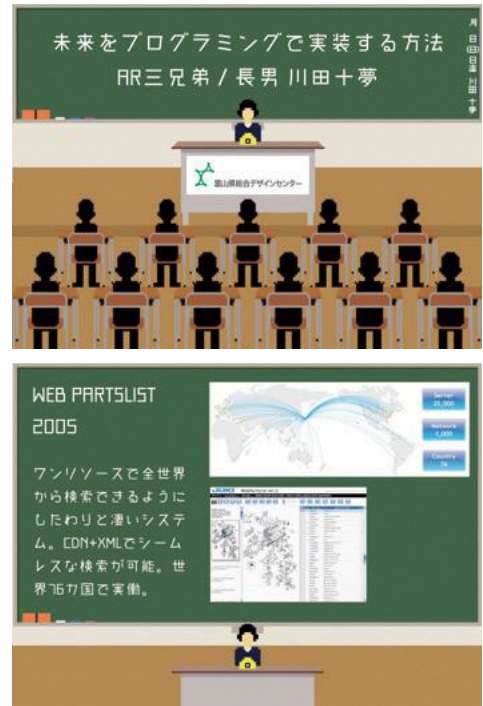
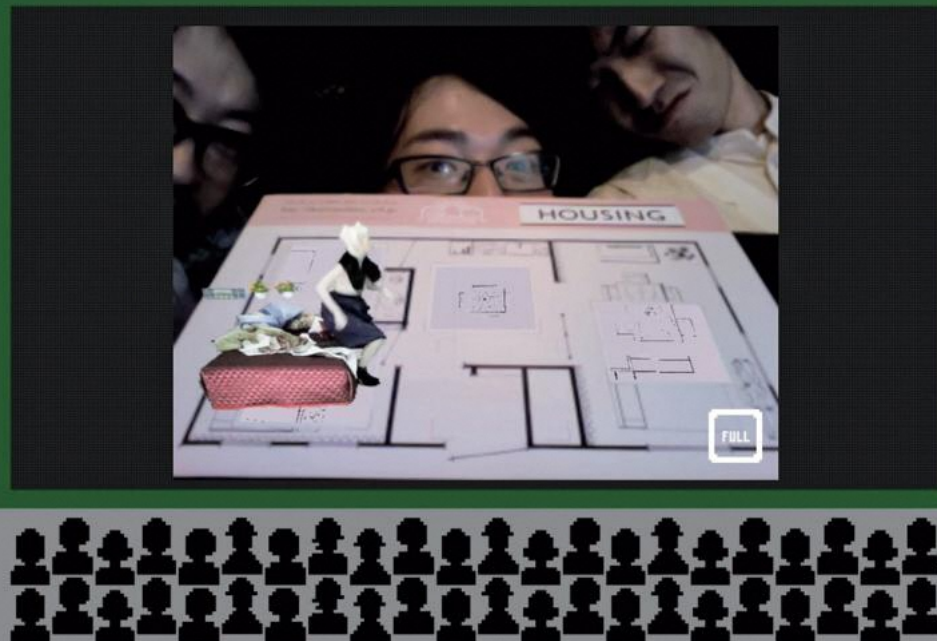
プログラミング教育に期待

プログラミング教育が小学校の履修科目になるということに、とても期待しています。プログラミングの楽しみは、「円を描くという指令を出して、ソースが間違っていなければ描ける」ということなので、そういうのをやって欲しいですね。

例えば、計算が苦手なら、電卓もプログラミングで作ればいいし、体育が苦手なら、3Dで自分の体を作って跳び箱を跳べばいい。苦手な教科をプログラミングで得意科目にできるような教え方、評価方法の導入をするべきタイミングだと思います。

教育に関する試みとして作ったものをいくつか紹介します。例えば、年号を書くと、関ヶ原の合戦の映像が浮かび上がるプログラム。自分の手書き文字をAIに覚えさせ、あとは関ヶ原の戦いの映像をARで可視化するというものです。

美術であれば、モナリザを空間に取り出し、別の角度から見たり巨大化させたりします。教えるべきは、それがなぜ美しいとき



れたのかを現代に置き換えること。現代の目で見直さないと豊かな感性は育たないのでは、と考えています。僕の考えるARは虚と実の間にあるもの。現実自体を拡張する、あるいは領域を超えるものです。

日本においてプログラマーが少ないことは課題です。プログラムを学ぶには、何から手を付けて、どの順番でどの言語で学べばいいのか、事例の「料理本」と言えるような面白い教科書を作りたいですね。

スマホの中に完結しない空間開発

僕が考えるARは通信と入力、出力機器があればできます。空間ごとのインフラを使うことで、集団でできる体験も作れます。

例えば、イノフェスのきゃりーぱみゅぱみゅのステージで、節電センサーと骨格センサーを用い、体の動きに合わせて、紗幕上のCGを連動させました。最後にイレギュラーな動きをした時に「大仏はきゃりーの動きにリンクしていたのか!」と、みんな驚いてくれました。

2012年に、阪急百貨店うめだ本店で実施された「拡張現実オーケストラ」も、その一つです。これは、空間にあるインフラを使って、参加者が大阪フィルハーモニー交

響楽団の指揮者となり、「ブラームス／ハンガリー舞曲 第5番」を合奏するというものでした。

森ビルの屋内展望台で開催された「星にタッチパネル劇場」は、プラネタリウムのような仕組みをプロジェクターに投影。手持ちのスマホで操作することができる機能が話題になりました。

広島的大型ショッピングモールで開催された参加型プロジェクションマッピング「ワープする路面電車」は、実際に運行していた3両編成の路面電車車体と床をスクリーンにしました。スマホで自分が行きたい場所と電車のカラーを選択すると、予定時刻にその電車がやってくるという仕組みです。

全国の空港を拡張する計画も進行中です。その土地の文化財をデジタル化して、それを共有の財産とする。スミソニアンなど海外の博物館は、すでに文化財をデジタル化しています。3Dデータを提供することで、新たなお客さんが呼び込めます。これをやらなければ、日本の観光資源はゼロになると、僕は考えています。

これからのAR

デジタルで描いた物は劣化しないので、

物にその時の記憶を宿せたらいいなと思って作ったのが、さまざまな物に自分の記憶を宿すことができる「物に記憶」という仕組みです。これからは、物に記憶を宿すということが、誰でもできるようになると思います。例えば小瓶に入れた砂があって、「それはどうい砂だったのか?」ということがARで見られるようになるといったものです。

お子さんがいる家庭では小さくなった服をどんどん捨ててしまうけれど、一枚だけでも残しておいて、その子が遊んでいる様子を宿しておけばいい。そうすると、その服を持っている限りデータが迷子にならない。記憶とデータと物質が伴っていないから、物が残せないのだと思います。

また、拡張現実空間上に作った操作パネルで操作ができるようになるのも、時間の問題だと思います。そして操作の感触をどのように表現するか。今では、RGBの電子記号化によって視覚で伝えることや、触覚を利用した開発も進んでいます。ツルツルしている、ザラザラしている、またはボタンを押した感覚などが、電気信号で再生できるようになっていくのも遠い未来のことではありません。

「幸のこわけ」ブランド開発から10周年、記念イベントを開催

「越中富山からのおすすめ」をコンセプトに、富山県総合デザインセンターが中心となって進めてきた「越中富山お土産プロジェクト」。10周年を記念し、新商品の発表・先行販売とともに、関係企業などによるミニトークを開催しました。



期日 2019年10月26日(土)

会場 JR富山駅構内 南北自由通路

富山の味と技を集結、富山を代表するお土産ブランドに成長

富山の美味しい食をセレクトした「越中富山 幸のこわけ」と、富山のものづくりや工芸にフォーカスした「越中富山 技のこわけ」。富山県が2009年から「越中富山お土産プロジェクト事業」として、富山ならではの商品をPRするためブランド化したものです。10周年を迎えた記念イベントでは、「越中富山 幸のこわけ」の新商品を発表、先行販売を行い、「幸のこわけ&技のこわけミニトーク」を開催しました。

新商品発表会に先立ち、富山県総合デザインセンター所長・桐山登士樹がデザインの視点から新たなお土産ブランドとしての地位を確立した「越中富山お土産プロジェクト」の実績を紹介。従来のお土産品のイメージを一新した美しいデザインが人気を呼び、「越中富山 幸のこわけ」は累計売上が10数億円に達しました。いまや

「富山のお土産と言えば、幸のこわけ」といわれる存在になったこと、10周年を記念する新商品には、これまでのラインナップにはなかったお菓子を加えることができたことを説明。シリーズがさらなる広がりを見せて発展していることを伝えました。

新商品発表会では企業4社の担当者が登壇し、それぞれの商品の特徴や魅力を発表。(株)ボン・リブランが開発した「たまねぎスティックパイ」は砺波地区を中心に栽培されているたまねぎを使ったパイに、「富山湾の宝石」と称される白エビの粉末をまぶしたもので、サクサクとした食感に白エビの香り。甘すぎないのでビールにもよく合い、男性にもおすすめの商品。(株)川村水産の「ほたるいか姿干しスモークチーズ」は、「越中富山 幸のこわけ」で高い人気を誇るほたるいかにスモークチーズとマヨ

ネーズを合わせて商品化。従来の火であぶって食べるタイプではなく、そのまま食べて美味しいほたるいかの魅力を引き出しました。(株)昌栄堂の「とやま米粉クッキー」は米どころ富山県のコシヒカリを使った、小麦粉を使用しないグルテンフリーの米粉クッキー。和菓子ですが、お酒にも合います。(株)鈴木亭の「丸ようかん」は同社が約60年前から製造している伝統的商品。糸楊枝で刺すと、フィルム包装が簡単に取れて、ようかんがぶるんと出てくるため、見ても食べても楽しいお土産。(P4でも紹介)

イベント会場では新商品が先行発売されたほか、「越中富山 幸のこわけ」の人気商品を集めたセット商品や、「越中富山 技のこわけ」商品も販売され、多くの来場者が買い求めました。

幸のこわけ & 技のこわけ ミニトーク

「越中富山お土産プロジェクト」のプロジェクトメンバーが登場し、ミニトークを開催しました。

幸のこわけミニトーク



- 中山 真由美 ファイン・プロジェクト アートディレクター
- 能作 幾代 nousaku店主、チーズソムリエ
- 司会 平島 亜由美 北日本放送アナウンサー



平島 ● この場にいる県内女性がメンバーになって『幸のこわけ』に10年間取り組んできました。みんなで集まっては「これは人にあげるにはちょっとグサイよね」などと毒舌を吐いていたのを覚えています(笑)



中山 ● 女性目線の厳しさでね(笑)

私自身、富山のお土産を県外の友達に持って行く時、「これはちょっとセンスを疑われる」と思うことがあり、「自分があげて嬉しい、もらって嬉しいお土産がなかなかないな」と感じていました。そのなか『幸のこわけ』のデザインを担当できて本当に光栄と感じています。

平島 ● 中山さんはブランドマークのデザインも手掛けました。

中山 ● 富山の「富」を具象化し、「田」の部分をおすそわけの気持ちを含めて、ます寿司を切り分けたようなデザインにしたんです。

平島 ● 従来のお土産は箱に入っているイメージでした。それで「最初からオシャレに小分けになっているものもいいよね」という会話から、スティックタイプが生まれたんですね。あのアイデアがこんなにウケるとは思いませんでした(笑)

能作 ● 私はお土産をおすそわけにも通じる「人と人の潤滑油」「コミュニケーションの手段」だと思っているんです。『幸のこわけ』のパッケージデザインには、そんな「おすそわけの精神」がよく表れていると思います。



平島 ● 今後、商品がどんどん増えていくといいですね。



能作 ● 「富山ってどこにあるの?」という県外の方がまだまだいたりして、販路はたくさんあると思います。

平島 ● 『幸のこわけ』を入口にして、富山の魅力を知ってもらう第一歩になるといいですね。

技のこわけミニトーク



- 下尾 さおり Shimoo Design、木工作家
- 能作 幾代 nousaku店主、チーズソムリエ
- 平戸 香菜 金工作家
- 司会 平島 亜由美 北日本放送アナウンサー

平島 ● 能作さんとは『幸のこわけ』のプロジェクトメンバーとしてご一緒させて頂きましたが、いつしか「(工芸品等)技の方もやりたいよね」という話になったんですね。

能作 ● 私はチーズソムリエとして、ワインとチーズのお店を営んでいます。店では豆皿でチーズを供していますが、その豆皿を並べると、女性客が「かわいい」と言って下さるんですよ。豆皿はテーブルコーディネートでも重宝します。それで豆皿を『技のこわけ』で使えたらな、と考えたんです。サイズは12センチ、包み紙を統一し、福を分ける「福分け皿」という名前で商品化にこぎ着けました。小さなお皿ですること1点で使ってもよし、数点で組み合わせさせて使



うこともできます。『幸のこわけ』のコンセプトでもある「おすそわけ」にも通じていると思います。

下尾 ● 1枚の皿のなかにいろんな人たちが込めた思いを、県外の人だけでなく、県内の人にも気付いてほしいです

富山の人は県外に目を向けがちな性質があると思いますが、『技のこわけ』が地元のよいものを見直すきっかけになるとうれしいですね。

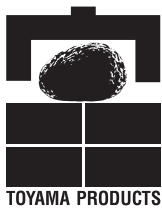
平戸 ● 私は錫を使って酒器を作りました。制作途中、作品を上から見た時、酒器の形が鳥に似ている、と気付いたんです。富山と言えば、ライチョウ。それで作品名を「ライチョウ」にしました。プロジェクトに参加して、異業種の作家さんと近い距離でお話できたことは私にとって、豊かで貴重な体験でした。



下尾 ● 商品はぜひぶん充実してきましたが、今後もっと手に取りやすい価格、あるいは酒器と対になったお盆などシリーズ化していくといいと思います。まずは『技のこわけ』で富山を知ってもらい、次に使ってもらうところまでいきたいですね。

能作 ● 『技のこわけ』は自分で使って楽しく、人に贈ることで自分のセンスを表現することもできます。

平島 ● 暮らしのなかに『技のこわけ』を取り入れていきたいですね。



優れた富山ブランドとして今年度17点を選定

富山県総合デザインセンターでは、富山県内で企画または製造されている性能、品質及びデザイン性に優れた工業製品を「富山プロダクツ選定商品」として認定する富山プロダクツ選定事業を毎年開催。富山ブランドとして国内外に情報発信し、企業の販路開拓を支援しています。選定商品を生産・販売する企業には、商品の紹介パンフレット作成や、各種展示会への出品について県が支援を行うほか、共通シンボルマークの使用が認められます。



【選定委員】

● 委員長

桐山 登士樹 富山県総合デザインセンター所長

● 委員

内田 和美 富山大学芸術文化学部教授

進藤 仁美 D&DEPARTMENT TOYAMA店長

高川 昭良 高岡市デザイン・工芸センター所長

竹澤 敏光 (公財)富山県新世紀産業機構
中小企業支援センター長

茂木 新之助 (株)大和 商品企画本部商品部主任

岡 雄一郎 富山県総合デザインセンター
デザインディレクター

【選定商品例】



タオル
富山もよう
ハンカチタオル、フェイスタオル
富山もようプロジェクト



ピアカップ
溜塗カップ
黒田 昌吾



おりん
アストロリン
(株)山口久乗

【スケジュール】

2019年

6月3日～8月19日 集中募集

9月4日 選定委員会の開催

10月1日 選定証交付

10月3日～12月1日 富山プロダクツ2019展
(D&DEPARTMENT TOYAMA)

10月31日～11月2日 富山県ものづくり総合見本市
2019/T-Messe出展



ピアマグ
R&Wシリーズ BEER MUG
(株)織田幸銅器



バッグチャーム型 防災用ホイッスル
OMAMORI WHISTLE
(有)小野沢家具店



インターホンパネル
螺鈿加飾インターホンパネル
(株)ナガエ



時計
小さな時計
(株)タカタレムノス



授乳クッション
ふかふか授乳クッション
(株)リッチェル



カゴ
KAGO
(株)能作

選定商品はWEBサイトにて公開しています。
今年は申請16社39点(うち再申請5社9点)から
9社17点(うち再申請4社5点)が選ばれました。



富山プロダクツ
<https://www.toyamadesign.jp/products>

二人の建築家、 二人のアプローチ

パワー溢れる建築デザインで話題の永山祐子氏と、昨年のギャラリー・間(東京・乃木坂)で開催された展覧会が話題となった中山英之氏の二人の建築家を招き、それぞれの建築アプローチについてお話を伺いました。

【パネリスト】

永山 祐子 建築家/永山祐子建築設計代表

1975年東京都生まれ。98年昭和女子大学生生活科学部生活環境学科卒業。2002年永山祐子建築設計設立。20年に開かれるドバイ国際博覧会日本館の設計、歌舞伎町の超高層ビルのデザインを手掛け、「豊島横尾館」14年JIA新人賞、「女神の森セントラルガーデン」17年山梨県建築文化賞など受賞。

中山 英之 建築家/中山英之建築設計事務所主宰

1972年福岡県生まれ。98年東京藝術大学建築科卒業。2000年東京藝術大学建築科大学院修了。07年中山英之建築設計事務所設立。07年第23回吉岡賞(現・新建築賞)受賞など。主な著書に『1/1000000000』(LIXIL出版)など。19年展覧会「中山英之展,and then」(ギャラリー・間)が話題となった。

【モデレーター】

桐山 登士樹 富山県総合デザインセンター所長

期日 2020年1月31日(金)

会場 富山県美術館ホール



女神の森セントラルガーデン 永山祐子



Printmaking Studio/ Frans Masereel Centrum 中山英之(LISTと協働)

● 永山 祐子

建築によるさまざまな試み

横尾忠則氏の美術館である「豊島横尾館」は、「日常と非日常」「生と死」の境界線として赤いガラスを使用しました。赤いガラスを通してみると色の情報が消え、モノクロに見えます。一度消した色に再度出会う体験を作りました。このようにフィルターを通すことで3Dの建築を2Dのシーンに切り分けて表現し絵画表現に近づけていきました。

2本の遊歩道によって、森と建物に親密な関係を作った「女神の森セントラルガーデン」では、森の持つ肌理(キメ)になじむ「森綾(もりあや)」というパターンをオリジナルのアルミキャストやファブリックに使用し、建物自体にも肌理を与えました。

幾何学が持つ美しさ

2020年ドバイ国際博覧会日本館の設計では、アラベスクと日本の麻の葉文様を組み合わせたファサード・デザインを採用。幾何学は明解なルールによって無限の広がりを作り出す美しさを持っています。相対的に比較対象のない砂漠という景色で何を考えるか考えた時に、究極の比率、人間の作り出した秩序を持つものが浮かびました。無理やり日本的な作り方をしなくても、形の選び方や振る舞いの中に日本的なものが自然に表れるのではないかと考えています。



● 中山 英之

世界に想像を重ねる仕事

大学の卒展で、「建築科の展示には実物がない」と言われたことがあります。でも、紙と鉛筆さえあれば、縮尺という魔法を使って、天体のようなどんな大きなものでも描けてしまうなんて、こんなに面白いことはない。建築は、図面が頭の中に広げてくれる想像を、「実物」の世界に重ねることで、新しい経験を生み出す仕事です。

人間が持つ縮尺という概念

縮小された図や模型から、それを拡大したイメージを想像できるのは、人間の不思議な能力のひとつです。あるドアハンドルメーカーと一緒に作ったプロトタイプで、スノードームのように透明なノブの中に、ドアの向こうにある部屋を閉じ込めたことがあります。小型のカメラとプロジェクターをドアに組み込んだのですが、どこかの部屋がノブに映されるだけで、人間の脳はそれを「ノブの中にあちら側の部屋がある」というふうに認識してしまうから不思議です。そんなふうに、人間の脳の働きや縮尺という概念を組み合わせることで、新しい経験を作り出すようなことを考えるのが好きです。



ミラノサローネ2019にみるデザイントレンド

今回で第58回目を迎えるミラノサローネ国際家具見本市。今年は「レオナルド・ダ・ヴィンチ没後500年」に絡めた記念行事も同時に開催され、例年にも増して大きな盛り上がりを見せました。商品開発研究会では、山崎泰氏を招き、富山県総合デザインセンター所長：桐山登士樹とともにミラノサローネの様子を紹介し、(株)小泉製作所の初出展プロジェクトの経緯を富山県総合デザインセンターデザインディレクター：岡雄一郎が紹介しました。



【講師】

山崎 泰 (株)JDN 取締役
桐山 登士樹 富山県総合デザインセンター所長
岡 雄一郎 富山県総合デザインセンター
 デザインディレクター

期日 2019年5月22日(水)

会場 富山県産業高度化センター
 2F会議室



ミラノサローネ2019報告

今回で34回連続訪問となる桐山所長は、サローネが始まった1985年から同市を訪れリサーチを続けている数少ない日本人の一人。また2005年からは、出展する日本企業の展示プロデュースも務めています。今回の様子を写真で報告するとともに自身がプロデュースした「GRAND SEIKO(グランドセイコー)」のインスタレーションを動画を交えながら紹介しました。

次いで(株)JDNの山崎泰氏が、サローネの概要と、今回5日間にわたりリサーチした結果をたくさんの画像とともに紹介。レクサス、INAX、SONY、スズキなどの日本企業をはじめ、今年初出展となった住友林業の展示のほか、オランダ人デザイナーが手がける有田

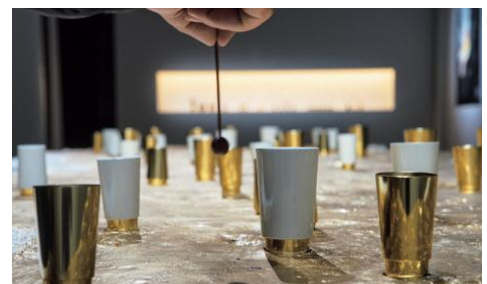
焼のテーブルウェアブランド「UTSUA」、東京藝術大学と展示会 / イベント装飾会社(株)ムラヤマによる実験的な展示などの報告がありました。また山崎氏は、今年度から誕生した「S.Project」を注目エリアとしてピックアップ。S.Projectはインテリア、アウトドア、ファブリック、照明などさまざまなジャンルを横断して展示する新エリアで、B&B、カールハンセン&サンズ、フリッツ・ハンセンなど著名企業のほか、深澤直人氏デザインのチェア / ソファによって日本からは唯一マルニ木工が選抜され、展示の機会を得ていたことなどが報告されました。

小泉製作所、オリジナルブランド「小泉屋」で出展

富山県企業としてミラノデザインウィークに初出展した(株)小泉製作所のプロジェクトの経緯を、岡デザインディレクターが紹介しました。昨年11月の出展の意思決定から商品の選定、展示コンセプトの立案展示デザイン…など、時間が無い中でどのように解決していったのか。プロデューサーとしての立場からの臨場感あふれる報告となりました。

仏壇の「おりん」で培ってきた「金属加工」と「音」の技術から立ち上げられた、「快音」をコンセプトとするオリジナルブランド「小泉屋」。心地よい音を奏でるグラス「Kanpai Bell Pair」、洋梨の形をした「pear」などの製品群を来場者が音を奏でられるインスタレーションによって展示しました。①ひきつける、②理解させる、③興味を持たせる、④広めてもらう…をキーワードに、金箔を貼った岩のようなブースデザインと音で着目させ、工場風景を写真で展示することで理解を深め、音を自ら奏でることで興味を持ってもらう。そしてユーザーと企業を繋ぐためのコミュニケーションツールも準備、友人知人への話題の広がりにも配慮するなど、インパクトのある展示となりました。

【ブースデザイン：岡 雄一郎】



ものづくりで海外と戦う前に、知っておくべき原理原則

富山県の優れた伝統工芸品の海外販路開拓を支援するため、職人やデザイナーを対象としたセミナーが開催されました。海外へプロダクトを売り込むには、どのような方法で、どのような切り口で行うのが良いのか？国内外で魅力的なショーアップを経験してきた3人のプロが、その極意を語り合いました。クロストークやディスカッションのほか、登壇者や参加者同士で悩みや課題を共有し合える交流会もあり、幅広い話題が飛び交いました。



【登壇者】

● 第一部・第二部

塩川 嘉章 Discover Japan Parisオーナー

木村 浩一郎 デザイナー

● 第二部

桐山 登士樹 富山県総合デザインセンター所長

期日 2019年9月18日(水)

会場 富山県産業高度化センター
2F会議室



第一部 クロストーク

海外販路開拓のためにまず知りたいこと

「日本の伝統への評価はどんどん高くなっていくと考えている」と語る木村氏。「ヨーロッパの市場で受け入れられるには、コンテンツポラリーなものであることが重要」と塩川氏。海外で活躍するお二人が、海外販路開拓のために必要なことを、手法・ニーズ・開発の3つのポイントに分けて解説しました。

● 手法

- ◎販路開拓は、見本市に出展することがほとんど。
- ◎見本市出展はリスクが大きいので、費用対効果を考え、価格や用途など市場調査をしてから。

● ニーズ

- ◎現地のニーズをつかむことが重要。“なんとなく洋風なもの”は、現地の人が欲しい物とは違う。
- ◎4つのステップを理解すること。
 1. 気付く(需要を知る、マーケティング)
 2. 考える(深掘りする、企画)
 3. 作る(形にする)
 4. 広める

● 開発

- ◎高級品であるなら、世の中のトップの人たちに受け入れられる美意識、付加価値が必要。
- ◎海外のデザイナーとのコラボレーションでは、新しい価値を作ることが必須。

第二部 パネルディスカッション

世界と戦うためのプロダクトデザイン

パネルディスカッションでは桐山氏も登壇。「トレンド感は一つではくれなくなっている。市場と地域の特性を見極めて、戦略を考えていくべき」と、世界の現状を解説。その後は、3人でのトークとなりました。

- ◎均質化されたものづくりは飽きられる。ハンドメイド、アーティスティックなものに、トレンドが移っている。
- ◎質感、ディテール、カラーの重要性はますます高まっていく。そこに日本のチャンスがある。
- ◎ブランド力を高めること、お客さんにいかに高く買ってもらえるかが重要。
- ◎決済手段や関税の取扱いなどの商習慣や現地のトレンドを押さえたターゲットの設定、商品化など、とにかく事前準備が大切。そして自分たちの力をよく見極め、数年間でどれくらいの段階を刻んで発展していくか、戦略を考えること。
- ◎職人がいい仕事をできるのは、日本だけと言っていい。これからは物ではなく、職人が世界へいくべき時代。
- ◎フランスでは以前と違い、職人のステータスが上がってきた。日本の職人文化は、世界に類を見ない広がりがある。どうしたら売れるのか、ポイントをつかむことが大切。



みんなでつくる“未来のくるま”

次世代のものづくりを担う小・中・高校生を対象に、デザインを活用したものづくりの魅力や可能性を伝え、理解を深めることで将来のデザイン人材の育成につなげる「デザインの魅力発見プログラム事業」。初回となる本年度は「みんなでつくる“未来のくるま”」をテーマに、カーデザイナーの杉谷昌保氏を講師に迎え、3つのプログラムのワークショップを行いました。企画から完成まで3～4年かかるという車づくりは、3DやVR技術の台頭とともに加速度的に進化しています。その中で関わるデザイナー以外の多くの人についても説明していただき、子どもたちのものづくりへの関心が深まるワークショップとなりました。

【講師】

杉谷 昌保

(株)クリエイティブボックス デザイン・プログラム・マネージャー

1996年より日産自動車(株)でカーデザイナーを務める。3代目セレナ、2・3代目エルグランドやコンセプトカーのインテリアデザインを担当。2014年よりデザイン・プログラム・マネージャーとして2代目リーフをはじめ、日産の電気自動車全般のデザインサポートを担う。18年より(株)クリエイティブボックスに勤務。



小学生の回

期日

2019年8月24日(土) 午前・午後の部
2019年8月25日(日) 午前・午後の部

会場

富山県総合デザインセンター
2Fクリエイティブサロン

富山県総合デザインセンターで開催された全4回のワークショップには、各回約15名の小学生と保護者が参加。ものづくりの楽しさを体験しました。最初にカーデザイナーの仕事についてレクチャーを受けた後、描いた絵が立体的になる真空成形機「V.former Lab」を使い、平面が立体になる瞬間を体験。特殊なプラスチック板が一瞬で立体になる様子に、会場のあちこちから歓声が上がっていました。立体化された車には、マーカーで思いの模様や文字などを描写し、世界で一台だけの自分の車をデザインしました。

カーデザイナーという仕事がよく分かった(参加者)

平面が立体になって感動した(参加者)

ミニ四駆にも載せられるので、やってみたらもっと面白かった(参加者)

部品毎に作り、プラモデルのように組み合わせてみたい(保護者)

夢を実現していくまでのプロセスのお話を聞けた(保護者)

大人も参加できるようにしてほしい(保護者)



Voice



中学生の回

期日 2019年11月16日(土) 午前の部

会場 富山県総合デザインセンター
2Fクリエイティブサロン/バーチャルスタジオ

合計9名の中学生が参加。カーデザイナーの仕事の他、デザインプロセスについてレクチャーを受けた後、デザイナーが実際に使うカラーマーカーを使って、車の線画に色を塗るスケッチ体験を行います。どのように塗るとより立体的に見えるか、色の濃淡や塗り方を考えながらの作業に、真剣なまなざしで取り組んでいました。その後、参加者が事前に描いてきた「未来のくるま」のアイデアをもとに、デザイナーが実際にスケッチを描きます。完成したデザインは、バーチャルスタジオで実寸大で投影。参加者から歓声が上がリ、カーデザインの進め方が実感できるワークショップとなりました。

実際に活躍しているデザイナーさんに、自分の考える車を描いてもらってうれしかった(参加者)

スケッチが楽しかった。本当に立体的に見えたのが、すごいと思った(参加者)

車が好きなので、このイベントに参加して良かった(参加者)

色を重ね塗りして立体感を出すことを体験させていただいて、とても良い経験になったと思う(保護者)



高校生の回

期日 2019年11月17日(日) 午前・午後の部

会場 富山県総合デザインセンター
2Fクリエイティブサロン/バーチャルスタジオ

合計10名の高校生が参加し、デザイン工程について、より深く学ぶワークショップを開催。レクチャー、スケッチ体験の後、事前に描いてきた「未来のくるま」のアイデアをもとに、車内レイアウトを決める作業を行います。実際の車に必要なシートや、エンジンなどのシールをレイアウトシートに配置、車の輪郭線などを描く作業に、参加者は真剣に取り組みました。その後、アイデアとレイアウトをもとに、デザイナーが実際にカーデザインのスケッチを描きます。自分たちのアイデアがデザインになる様子に、参加者は目を輝かせて見入っていました。最後に、バーチャルスタジオでVR設備を体験。最新技術に驚きの声が上がっていました。

プロの描き方を目の前で見られて良かった。
デザインの考え方を知ることができたのも良かった(参加者)

もっと車が好きになった。車のデザインについて、
詳しく知ることができて良かった(参加者)

デザインについて、少し踏み込んだことを
知ることができ、貴重な体験となった(参加者)

内容が濃く、同伴の親も楽しめた。
進路の参考の1つになれば良い。
この施設のことも初めて知った(保護者)



2019(平成31・令和元)年度 事業報告

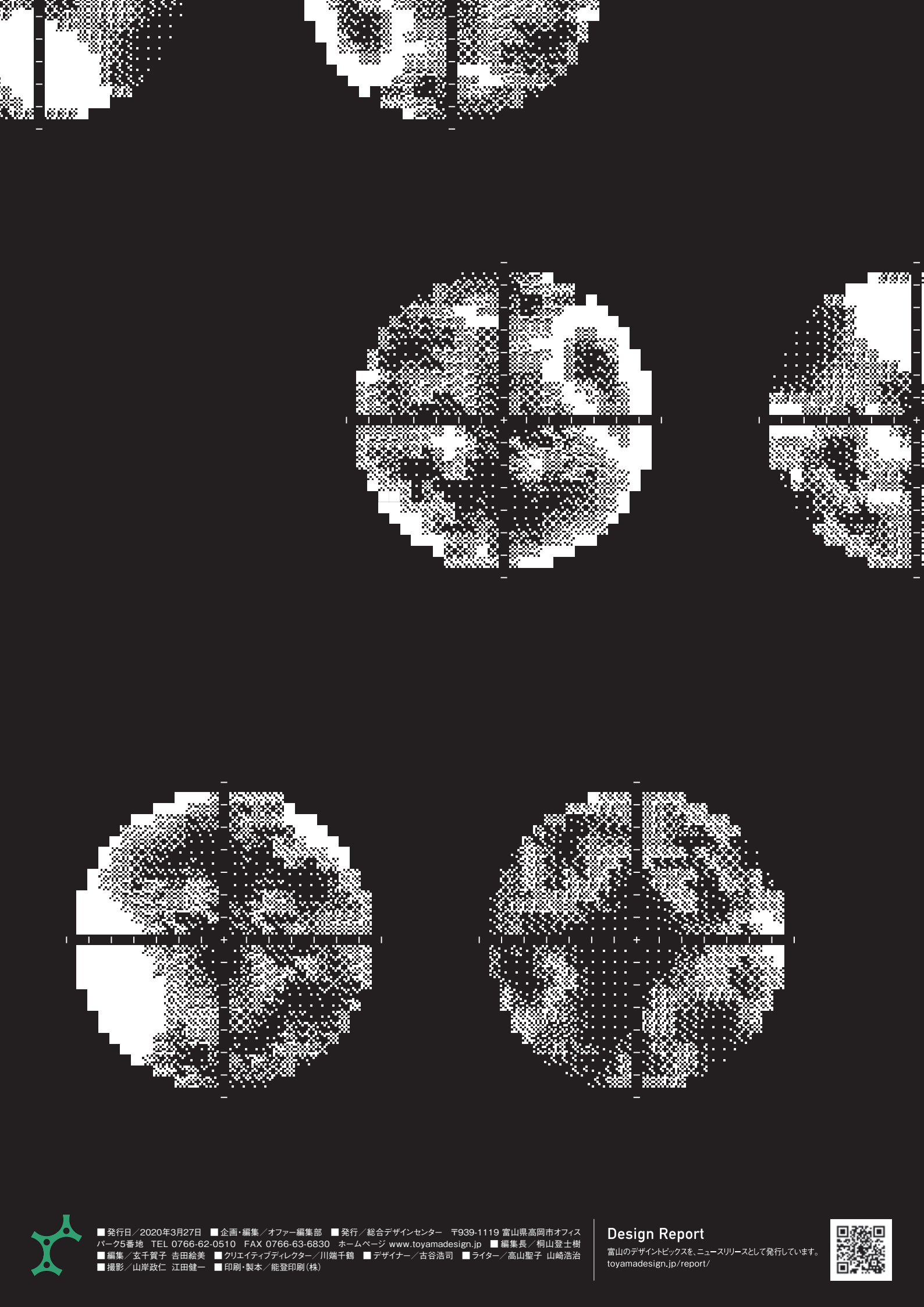
	名称・日時	内容	備考	場所
1 デザイン開発支援事業	富山県商品開発研究会 2019/5/22	ミラノサローネ2019デザイントレンド 未来研究会・プロジェクト会議案内	講師:山崎 泰(株)JDN 取締役) 桐山 登士樹(県総合デザインセンター所長) 岡 雄一郎(県総合デザインセンターデザインディレクター)	県総合デザインセンター クリエイティブ・サロン
	2019/7/10	富山デザインコンペティション2019応募作品内覧会(1次審査)		国際文化会館(東京都港区)
	2019/9/18	海外販路開拓セミナー「ものづくりで海外と戦う前に、知っておくべき原理原則」	講師:塩川 嘉章(Discover Japan Parisオーナー) 木村 浩一郎(デザイナー) 桐山 登士樹(県総合デザインセンター所長)	県産業高度化センター 会議室 及び県総合デザインセンター クリエイティブ・サロン
	2019/10/8	富山デザインコンペティション2019 最終審査・授賞式・意見交換会参加		ホテルニューオータニ高岡
	2020/3/31	企業視察研修会	講師:田中 真紀子(フードディレクター/栄養士)	Healthian-wood
	新川・富山相談窓口の開設	企業の商品開発や、PR、各種情報にいたるまで、幅広くサポート。「商品開発についてアドバイスしてほしい」「企業の魅力や商品を効果的にPRしたい」「商品開発の補助事業を知りたい」といった様々な要望をもつ県内企業、個人事業者の方を対象に個別相談に応じるデザイン相談会を開催。	【新川地区】 相談日時:毎月第1金曜日 13:30~16:30 【富山地区】 相談日時:毎月第2・4金曜日 13:30~16:30	県魚津総合庁舎405会議室 県民会館604会議室
デザインプロジェクト推進事業 2019/4 ~2020/3	富山県内のデザイン開発支援策として、企業にデザイナーを派遣し、デザインを軸に魅力ある商品開発プロジェクトを発起させ、県内のデザイン開発を推進する。	派遣先企業①:(株)ジェック経営コンサルタント 派遣デザイナー:DOT design(韓国 Lance) 派遣先企業②:三協立山(株) 派遣デザイナー:(有)ドリルデザイン(林 祐輔、安西 葉子) 派遣先企業③:スターバックス コーヒー ジャパン(株)イオンモール高岡 派遣コーディネーター③:山崎 慶太(囲炉裏) ゴールデンピンアワード出品・商品PR④:ウェルビー(株)、(株)駒井漆器製作所、(有)佐野政製作所、(有)四津川製作所		
2 デザイン交流事業	デザイン講習会 2020/1/31	「二人の建築家、二人のアプローチ」	講師:永山 祐子(永山祐子建築設計 代表) 中山 英之(中山英之建築設計事務所 主宰)	県美術館ホール
	ナイトフォーラム 2020/2/21	「期待するデザイン ~デザイナー、大学教授として、40年を振り返る~」	講師:佐藤 康三(プロダクトデザイナー/法政大学デザイン工学部 教授/(株)コーソーデザインスタジオ 代表)	県総合デザインセンター クリエイティブ・サロン
3 バーチャルスタジオ	開所式 2019/5/30	テープカット 施設見学		県総合デザインセンター バーチャルスタジオ ピロティ等
	VR技術研究・活用促進事業 2019/6/19	第1回 VR活用セミナー「ものづくり産業におけるVR活用」	講師:藤井 直敬(デジタルハリウッド大学大学院教授/ 株)ハコスコ代表取締役/(一社)VRコンソーシアム代表理事)	県産業高度化センター 会議室 及び県総合デザインセンター バーチャルスタジオ
	2019/7/5	第2回 VR活用セミナー「日産自動車におけるVR活用」	講師:磯 聡志(日産自動車(株)デザインリアライゼーション部) 屋岡 治彦(日産自動車(株)デザインリアライゼーション部)	県総合デザインセンター バーチャルスタジオ
	常設展	VR技術を活用したデザイン交流拠点PR展示		県産業高度化センター 展示室
4 運営事業 「工芸魅力向上会議」	2019/4 ~2020/3	工芸魅力向上会議	アドバイザー:青柳 正規(多摩美術大学理事長、東京大学名誉教授、前文化庁長官 チーフアドバイザー)、武山 良三(富山大学理事・副学長)、須藤 玲子(テキスタイルデザイナー)、川上 典季子(ジャーナリスト、21_21 DESIGN SIGHTアソシエイトディレクター)、能作 克治((公社)富山県デザイン協会理事長)、畠山 耕治(金属作家、金沢美術工芸大学教授)、林口 砂里(有)エビファネットワークス 代表)	

	名称・日時	内容	備考	場所
5 新事業創出支援事業 クリエイティブ・デザイン・ハブ	2019/9/6	第1回 デザインと先端技術研究会「富士フィルムにおける医療への取組」 プロジェクト会議【医薬】【素材】【移動】	ゲスト: 千田 豊(富士フィルム)	県総合デザインセンター クリエイティブ・サロン
	2019/10/25	第2回 デザインと先端技術研究会「海外の医療機器開発とデザイン」 プロジェクト会議【医薬】【移動】	ゲスト: 直井 幸子(TANAKA KAPEC DESIGN GROUP)	県総合デザインセンター クリエイティブ・サロン
	2019/12/17	第3回 デザインと先端技術研究会「美のトレンドについて」 プロジェクト会議【移動】	ゲスト: 佐藤 友美(ライター・著者 元東京富士大学客員教授)	県総合デザインセンター クリエイティブ・サロン
	2020/1/29	第4回 デザインと先端技術研究会「デザイナーのビジョンを実現するエンジニアリングの力」 プロジェクト会議【移動】	ゲスト: 武井 祥平(研究者・エンジニア/株nomena代表)	県総合デザインセンター クリエイティブ・サロン
6 越中富山お土産プロジェクト	富山お土産プロジェクト委員会			
	2019/5/22	第36回 越中富山お土産プロジェクト委員会	委員: 中山 真由美(㈲ファイン・プロジェクト アートディレクター) 能作 幾代(nousaku店主/チーズソムリエ) 羽根 由(㈱生活ネット研究所 代表取締役所長) 平島 亜由美(北日本放送㈱ 報道制作部長(アナウンス担当)) 桐山 登土樹(県総合デザインセンター 所長) 大矢 寿雄(県総合デザインセンター 顧問) 岡 雄一郎(県総合デザインセンターデザインディレクター)	県総合デザインセンター クリエイティブ・サロン
2019/6/19	第37回 越中富山お土産プロジェクト委員会			
	2019/12/3	幸のこわけ事業報告会及び衛生講習会		県総合デザインセンター プレゼンテーションルーム
7 富山のデザイン発信力強化事業	技のこわけプロジェクト委員会			
	2019/7/9	第15回 技のこわけプロジェクト委員会	委員: 下尾 さおり(Shimoo Design/木工作家) 能作 幾代(nousaku店主/チーズソムリエ)	県総合デザインセンター クリエイティブ・サロン
	2019/7/18	第16回 技のこわけプロジェクト委員会		
	2020/2/21	第17回 技のこわけプロジェクト委員会		(株)雅覧堂、漆器くにもと、(有)桂樹舎
	2020/3/10	第18回 技のこわけプロジェクト委員会		
2020/3/30	第19回 技のこわけプロジェクト委員会			
10周年記念イベント				
2019/10/26	越中富山お土産プロジェクト10周年記念イベント		富山駅構内 南北自由通路	
ワークショップ				
2019/4/20	技のこわけで楽しむ富山の幸「昼の膳 “パンの巻”」	講師: 田中 真紀子(フードディレクター / 栄養士) ゲスト: 針山 佳奈恵(トマチサンドイッチ店 店主)	HATCHI金沢 B1Fシェアキッチン(石川県金沢市)	
2019/5/26	技のこわけで楽しむ富山の幸「富山と金沢の料理人に聞く食×器の魅力」	講師: 中川 裕子(キリンビール地域創生トレーニングセンタープロジェクトプロデューサー) 柿谷 政希子(柿太水産 6代目) 峯越 祥子(a.k.a.マネージャー)	HATCHI金沢 a.k.a.(石川県金沢市)	
8 デザイン普及指導事業	デザインセミナー			
	2020/2/27	「未来をプログラミングで実装する方法～現実的ではないが、拡張現実的ではある～」	講師: 川田 十夢(開発者/AR3兄弟 長男)	県総合デザインセンター パーチャルスタジオ
	富山デザインブランド販路開拓事業			
	2019/4/2	越中富山 技のこわけ STORE in 金沢 ～6/30		HATCHI 金沢 SHOWCASE INFORMATION(石川県金沢市)
2019/7/24	越中富山 技のこわけ STORE in 銀座 -クラフトで楽しむ夏の宵- ～8/6		松屋 銀座本店 7階プロモーションエリア(東京都中央区)	
2020/2/1	テーブルウェアフェスティバル2020北陸三県ブース出展 ～2/10		東京ドーム(東京都文京区)	

2019(平成31・令和元)年度 事業報告

	名称・日時	内容	備考	場所
9 富山デザインウェブ2019	デザインウェブ開催委員会 2019/4/25	2018年度報告と2019年度事業計画案の承認		富山県民会館 706会議室
	富山デザインコンペティション2019 2019/4/16 ~7/1	作品募集テーマ「編みなおす」 応募登録・作品シート受付	審査員: 秋山かおり(デザイナー/STUDIO BYCOLOR 代表) 吉泉 聡(デザイナー/TAKT PROJECT Inc.代表) 岡 雄一郎(県総合デザインセンターデザイン ディレクター)	
	2019/7/10	1次審査 255作品からファイナリスト作品12点、佳作9点を決定		国際文化会館(東京都港区)
	2019/10/8	最終審査・授賞式・意見交換会 1次審査を通過した12点のうち2点が辞退となり、10点の作品のデザイナーにより模型を使ったプレゼンテーション・公開審査・授賞式・交流会		ホテルニューオータニ高岡
	企業視察ツアー 2019/10/9	富山の県内ものづくり現場を見学		視察先: 三芝硝材(株)、(株)タニハタ、(株)能作、県総合デザインセンター
	デザイン展 2019/10/9~14	企画展「平成を彩ったデザイン」 「富山デザインコンペティション2019作品展」		ウイング・ウイング高岡
	関連イベント 2019/9/21 ~11/10	工芸都市高岡2019クラフト展 高岡クラフト市場街 ミラレ金屋町 富山デザインフェア2019 第59回富山県デザイン展		高岡市中心市街地、富山市 市中心市街地
	報告書発行 2020/2/1			
10 デザイン交流拠点化推進事業	商品流通支援活動 2019/12 ~2020/3	富山デザインコンペティション2019入賞作品のブラッシュアップとともに、提出作品の商品化に向けて県内企業とのマッチングやコラボレーション、販路開拓を支援		
	とやまD'DAYS 2019 2019/11/6 ~12/27	企画展		県産業高度化センター 展示室
	2019/11/6	オープニングイベント「新しい社会を支える テクノロジー×デザイン」 「この世にまだない“パーソナルモビリティ”をデザインすること」 「家族型ロボット「LOVOT」に宿る“愛らしさ”のデザイン」	講師: 塚本 皓之 (WHILL(株) デザイナー) 講師: 根津 孝太 (ぬづぐ design 代表/LOVOTデザイナー)	県産業高度化センター 会議室
	2019/11/20	イノベーション講座 case1「モビリティデザインもモノ+コトへ」 case2「空の移動革命に向けた政府の取組みと期待」	講師: 森口 将之 (モビリティジャーナリスト/モビリティ代表取締役) 講師: 小菅 隆太 (経済産業省製造産業局「空飛ぶクルマプロジェクト」)	県総合デザインセンター クリエイティブ・サロン
	2019/11/21	case3「暮らしに寄り添うクルマづくり」 case4「Meaning Driven Design」	講師: 青山 尚史 (ダイハツ工業(株) カーデザイナー) 講師: 坪井 浩尚 (プロダクトデザイナー)	県総合デザインセンター クリエイティブ・サロン
	2019/11/22	とやまD'DAYS ツアー		訪問先: (株)アートジョイ、サクラボックス(株)、(株)スギノマシン、源 ますのすしミュージアム
	報告書発行 2020/3	開催レポート		
	11 デザインの魅力発見プログラム事業	みんなでつくる「未来のくるま」 2019/8/24~25	小学生の回	講師: 杉谷 昌保 (㈱クリエイティブボックス デザイン・プログラム・マネージャー)
2019/11/16		中学生の回		
2019/11/17		高校生の回		

	名称・日時	内容	備考	場所
12 富山プロダクツ選定事業	募集 2019/6/3～8/19 (集中募集)	県内で企画、製造される品質やデザイン性に優れた工業製品の認定制度「富山プロダクツ選定商品」の公募		
	選定委員会 2019/9/4	応募(16社39点(うち再申請17点)された商品の中から9社17点(うち再申請9点)を「富山プロダクツ選定商品」として認定。	委員長: 桐山 登士樹(県総合デザインセンター 所長) 選定委員: 内田 和美(富山大学芸術文化学部教授)、 進藤 仁美(D&DEPARTMENT TOYAMA 店長)、高川 昭良(高岡市デザイン・工芸センター所長)、竹澤 敏光 (公財)富山県新世紀産業機構 中小企業支援センター長)、 茂木 新之助(株大和 商品企画本部 商品部主任)、岡 雄一郎(県総合デザインセンター デザインディレクター)	県総合デザインセンター クリ エイティブ・サロン
	選定証交付 2019/10/1		選定企業名: 株織田幸銅器、尙小野沢家具店、黒田 昌 吾、株タカタレムノス、富山もようプロジェクト、株ナガ エ、株能作、株山口久乗、株リッチェル	
	展示会 2019/10/3～12/1 「富山プロダクツ2019展」 2019/10/26～27 富山国際大学 大学祭出品 2019/10/31～11/2 T-Messe2019 富山県ものづくり総合見本市出展 2020/1/21～2/3 「とやま伝統工芸品PR展示販売会inパリ」出品			D&DEPARTMENT TOYAMA 富山国際大学 富山テクノホール maison wa(フランス・パリ)
	常設展	富山プロダクツ常設展		県産業高度化センター 展示室
13 情報発信事業	機関誌の発行 2020/3/27	offer47号 令和元年度事業報告		
	デザイン雑誌情報	日経デザイン、AXIS、confort、ELLE DÉCOR、Casa BRUTUSなどの デザイン誌を整備し、閲覧するなどの情報提供を行う。		
14 大学連携デザイン人材マッチング事業	とやまデザイン・トライアルワークショップ 2019/4/16 ～7/23、 8/7～9	第1回「デジタルモデリングによるモニュメント制作」	大学: 金沢美術工芸大学 工芸科 企業: 株ウイン・ディー	ワークショップ: 金沢美術工芸大学 見学: 株ウイン・ディー、武内ブ レス工業株、株鳥居セメント工 業、県総合デザインセンター
	2019/9/2 ～10/19、 10/27～29	第2回「富山の伝統工芸「鋳物」を学ぶ」	大学: 武蔵野美術大学 工芸工業デザイン学科IDコース 企業: 株平和合金	ワークショップ: 武蔵野美術大 学、県総合デザインセンター 見学: 尙色政、迅福堂、株平和 合金、県総合デザインセンター
	2019/10/16 ～2020/2/3	第3回「子供のための水遊び用玩具」	大学: 富山大学芸術文化学部 企業: 株カイスイマレン	富山大学芸術文化学部
	成果発表 2020/3/23	ワークショップ成果品の展示		県産業高度化センター 展示室
	報告書発行 2020/3	TOYAMA DESIGN TRIAL 2019 ANNUAL REPORT		
15 台湾デザイン連携事業	ゴールデンピンアワード 2019/6 ～2020/3	台湾のデザイン賞「ゴールデンピンアワード」出品支援	支援企業: ウェルビー株、株駒井漆器製作所、尙佐野政 製作所、尙四津川製作所	
	展示会 2019/7/29 2019/10/5～20 2019/10/5～13	台湾デザイナー箸置き発表・販売 TAIWAN DESIGN EXPO 2019 IN PINGTUNG 田田日和 日本好物選	出品: 技のこわけ 出品: 株能作、尙モメンタムファクトリー・Orii、株山口久 乗、尙シマタニ昇龍工房、天野漆器株、株小泉製作所、 尙桂樹舎、越中富山技のこわけ	台湾デザインセンター(台湾台中市) 屏東台糖縣民公園(台湾屏東市) 華山1914文創園區中1A館(台湾台北市)
	セミナー 2019/10/11	富山工芸×台湾設計 セミナー	モデレーター: 吳東龍 講師: TZULAI 厝内 主理人 Roger Hsu、県総合デザイ ンセンター 堂本拓哉	華山1914文創園區中1A館 (台湾台北市)
	ワークショップ 2019/10/12	「能作 鋳器鋳造体験」鋳製のぐい呑みまたは小トレーを製作する ワークショップ	講師: 株能作 北山卓司、県総合デザインセンター 堂本 拓哉	華山1914文創園區中1A館 (台湾台北市)
16 その他	インターンシップ 2019/7/3～5	県立高岡工芸高等学校 デザイン・絵画科 生徒3名 受入		県総合デザインセンター



■発行日/2020年3月27日 ■企画・編集/オファー編集部 ■発行/総合デザインセンター 〒939-1119 富山県高岡市オフィス
パーク5番地 TEL 0766-62-0510 FAX 0766-63-6830 ホームページ www.toyamadesign.jp ■編集長/桐山登士樹
■編集/玄千賀子 吉田絵美 ■クリエイティブディレクター/川端千鶴 ■デザイナー/古谷浩司 ■ライター/高山聖子 山崎浩治
■撮影/山岸政仁 江田健一 ■印刷・製本/能登印刷(株)

Design Report

富山のデザインピクセスを、ニュースリリースとして発行しています。
toyamadesign.jp/report/

